NEWS RELEASE

Narita Airport

2020 年 11 月 26 日

2021 年 3 月期（2020 年度） 中間連結決算について

2020 年度中間連結決算

- 営業収益は、前年同期比 73.8%減の 332 億円
- 営業費用は、前年同期比 34.5%減の 638 億円
- 営業損失は、306 億円
- 経常損失は、301 億円
- 中間純損失は、424 億円

新型コロナウイルスの感染拡大による各国の出入国制限や、日本国内における緊急事態宣言の発出、都道府県を跨ぐ移動自粛等の影響により、航空機発着回数および航空旅客数が大幅に減少したことなどにより、営業収益は民営化以降最も低い値。収益悪化を受け、最大限のコスト削減に努めたものの、民営化以降初めて営業損失、経常損失、中間純損失を計上。

➢ 営業収益は 4 期ぶりの減収

- ✈ 空港使用料収入については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴い、国際線、国内線旅客便の運休、減便が相次ぎ、航空機発着回数が 9 期ぶりに前年同期を下回ったことから、減収。
- ✈ 旅客施設使用料収入、物販・飲食収入、構内営業料収入については、航空旅客数が 6 期ぶりに前年同期を下回ったことから、減収。
- ✈ 航空会社等の費用負担を軽減し、航空機の運航や店舗運営を継続していただくため、空港関連事業者への支援として各種料金の減免措置を実施。

2020 年度通期連結業績予想

- 営業収益は、前期比 71.2%減の 683 億円
- 営業費用は、前期比 32.0%減の 1,335 億円
- 営業損失は、651 億円
- 経常損失は、654 億円
- 当期純損失は、783 億円

今後は、一部の国を対象に渡航制限の緩和が進むことや、成田空港の検疫体制の拡充が進むことにより、航空取扱量は徐々に回復に向かうものの、新型コロナウイルスの感染拡大以前の水準にまで回復するには時間がかかることが見込まれる。空港関連事業者への各種料金の減免による支援を継続しながら、運営費用等のコスト削減に取り組むものの、営業収益の減少を補いきれず、通期としても民営化以降初めての損失計上となる見込み。

なお、実際の業績は、今後様々な要因により大きく異なる結果となる可能性がある。

1. 航空取扱量　2020 年度中間期／通期見通し

（注）航空取扱量は、単位未満を四捨五入して表示しています。

区　分	中間期（4 月 1 日～9 月 30 日）				通期（4 月 1 日～3 月 31 日）			
	2019 年度	2020 年度	増　減		2019 年度	2020 年度	増　減	
	実　績 A	実　績 B	数　量 B-A	% B/Ax100	実　績 C	見通し* D	数　量 D-C	% D/Cx100
航空機発着回数（万回）	**13.5**	**4.8**	**△8.7**	**35.5**	**25.8**	**9.5**	**△16.4**	**36.7**
国際線	10.7	3.8	△6.9	35.6	20.3	7.4	△12.9	36.4
国内線	2.9	1.0	△1.9	35.1	5.6	2.1	△3.5	37.6
航 空 旅 客 数（万人）	**2,261**	**136**	**△2,125**	**6.0**	**4,148**	**377**	**△3,771**	**9.1**
国際線	1,862	52	△1,811	2.8	3,402	188	△3,214	5.5
日本人	749	14	△735	1.8	1,366	61	△1,305	4.5
外国人	920	18	△903	1.9	1,662	76	△1,586	4.5
通過客	193	20	△173	10.4	374	52	△323	13.8
国内線	399	84	△314	21.2	746	189	△557	25.4
国際航空貨物量（万トン）	**102**	**89**	**△13**	**87.2**	**205**	**177**	**△28**	**86.3**

＊ 一部の国や地域における渡航制限緩和等を前提とした予想数値

2. 2020 年度中間連結決算／通期連結業績予想

（注）決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

（単位：億円）

科　目	中間期（4 月 1 日～9 月 30 日）				通期（4 月 1 日～3 月 31 日）			
	2019 年度	2020 年度	増　減		2019 年度	2020 年度	増　減	
	実　績 A	実　績 B	金　額 B-A	% B/Ax100	実　績 C	予　想 D	金　額 D-C	% D/Cx100
営　業　収　益	**1,267**	**332**	**△935**	**26.2**	**2,371**	**683**	**△1,688**	**28.8**
営　業　費　用	**974**	**638**	**△335**	**65.5**	**1,963**	**1,335**	**△628**	**68.0**
営　業　利　益	**293**	**△306**	**△599**	**－**	**407**	**△651**	**△1,058**	**－**
経　常　利　益	**284**	**△301**	**△585**	**－**	**391**	**△654**	**△1,045**	**－**
中間（当期）純利益 ※	**183**	**△424**	**△608**	**－**	**244**	**△783**	**△1,027**	**－**

※親会社株主に帰属する中間（当期）純利益

３．セグメント別　2020 年度中間連結決算／通期連結業績予想

（１）2020 年度中間連結決算

（注）決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。（単位：億円）

科目	中間期（4 月 1 日～9 月 30 日）		増 減	
	2019 年度	2020 年度		
	実 績	実 績	金 額	%
営 業 収 益 ※1	**1,267**	**332**	**△935**	**26.2**
空 港 運 営 事 業	575	158	△416	27.6
リ テ ー ル 事 業	519	36	△482	7.1
施 設 貸 付 事 業	158	121	△36	76.9
鉄 道 事 業	14	14	△0	99.3
営 業 利 益	**293**	**△306**	**△599**	**－**
空 港 運 営 事 業	70	△309	△379	－
リ テ ー ル 事 業	144	△51	△195	－
施 設 貸 付 事 業	76	51	△25	66.6
鉄 道 事 業	3	3	0	118.1
経 常 利 益	**284**	**△301**	**△585**	**－**
中 間 純 利 益 ※2	**183**	**△424**	**△608**	**－**

※1 外部顧客に対する売上高、※2 親会社株主に帰属する中間純利益

- 空港運営事業 ： 国際線・国内線旅客便の運休および減便が相次いだことにより、航空機発着回数、航空旅客数がともに減少したことから、空港使用料収入は前年同期比 55.0%減の 94 億円、旅客施設使用料収入は同 96.2%減の 8 億円となり、営業収益は同 72.4%減の 158 億円。営業損失は 309 億円（前年同期は営業利益 70 億円）。

- リテール事業 ： 航空旅客数の減少による店舗の営業休止により、物販・飲食収入は前年同期比 95.8%減の 17 億円、構内営業料収入は同 88.8%減の 6 億円となったほか、広告収入等も減収となったため、営業収益は同 92.9%減の 36 億円。営業損失は 51 億円（前年同期は営業利益 144 億円）。

- 施設貸付事業 ： 航空旅客数の減少に伴い、駐車場使用料収入等が減収となり、営業収益は同 23.1%減の 121 億円。営業利益は同 33.4%減の 51 億円。

- 鉄道事業 ： 営業収益は 14 億円、営業利益は 3 億円と前年同期並み。

（２）2020 年度通期連結業績予想

（注）決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。（単位：億円）

科目	通期（4 月 1 日～3 月 31 日）		増 減	
	2019 年度	2020 年度		
	実 績	予 想	金 額	%
営 業 収 益 ※1	**2,371**	**683**	**△1,688**	**28.8**
空 港 運 営 事 業	1,088	320	△768	29.4
リ テ ー ル 事 業	946	88	△858	9.3
施 設 貸 付 事 業	306	245	△61	79.8
鉄 道 事 業	29	29	△0	97.3
営 業 利 益	**407**	**△651**	**△1,058**	**－**
空 港 運 営 事 業	25	△654	△679	－
リ テ ー ル 事 業	244	△104	△348	－
施 設 貸 付 事 業	132	99	△33	74.9
鉄 道 事 業	6	6	△0	97.6
経 常 利 益	**391**	**△654**	**△1,045**	**－**
当 期 純 利 益 ※2	**244**	**△783**	**△1,027**	**－**

※1 外部顧客に対する売上高、※2 親会社株主に帰属する当期純利益

- 空港運営事業 ： 航空取扱量は、下期において徐々に回復に向かうものの、引き続き新型コロナウイルスによる影響を大きく受ける見通しであり、空港使用料収入および旅客施設使用料収入で減収を見込むことから、営業収益は前期比 70.6%減の 320 億円。営業損失は、引き続きコスト削減に努めるものの 654 億円となる見通し。

- リテール事業 ： 航空旅客数は、引き続き新型コロナウイルスによる影響を大きく受ける見通しであり、物販・飲食収入および構内営業料収入で減収を見込むことから、営業収益は、前期比 90.7%減の 88 億円。営業損失は、物販・飲食収入の減収に伴い、商品売上原価の減少が見込まれるものの 104 億円となる見通し。

- 施設貸付事業 ： 航空旅客数は、引き続き新型コロナウイルスによる影響を大きく受ける見通しであり、駐車場使用料収入等で減収を見込むことから、営業収益は前期比 20.2%減の 245 億円。営業利益は、引き続きコスト削減に努めるものの、同 25.1%減の 99 億円となる見通し。

- 鉄道事業 ： 営業収益は 29 億円、営業利益は 6 億円と前期並みとなる見通し。

４．財務状態

＜連結貸借対照表＞　　(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。　（単位：億円）

科目	2019 年度期末	2020 年度中間期末	増 減	
	実 績	実 績	金 額	%
流 動 資 産	712	1,657	944	232.5
固 定 資 産	7,631	7,630	△0	100.0
資 産 合 計	8,343	9,287	943	111.3
流 動 負 債	990	1,316	326	132.9
固 定 負 債	3,559	4,300	741	120.8
負 債 合 計	4,549	5,616	1,067	123.5
純 資 産 合 計	3,794	3,670	△123	96.7

- 資産合計は、流動資産における現金及び預金等の増加により前期末比 943 億円（11.3%）増の 9,287 億円。
- 負債合計は、長期借入金の増加等により、同 1,067 億円（23.5%）増の 5,616 億円。
- 純資産合計は、同 123 億円（3.3%）減の 3,670 億円。自己資本比率は、前期末の 44.5%から 38.7%に低下。

＜参考：長期債務の推移＞　　(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。　（単位：億円）

科目	2019 年度期末	2020 年度中間期末	増 減		平均金利	
	実 績	実 績	金 額	%	2019 年度期末	2020 年度中間期末
長期債務	3,610	4,556	946	126.2	0.55%	0.55%
社債	3,290	3,290	—	100.0	0.58%	0.58%
長期借入金	320	1,266 (950)	946	395.8	0.23%	0.49%

※カッコ内は、財政融資資金の借入残高（内数）

（４）キャッシュ・フローの状況　　(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。　（単位：億円）

科目	中間期（4 月 1 日～9 月 30 日）		増 減
	2019 年度実績	2020 年度実 績	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	401	△150	△552
投資活動によるキャッシュ・フロー	△168	△526	△358
フリー・キャッシュ・フロー	233	△677	△910
財務活動によるキャッシュ・フロー	△163	1,644	1,807

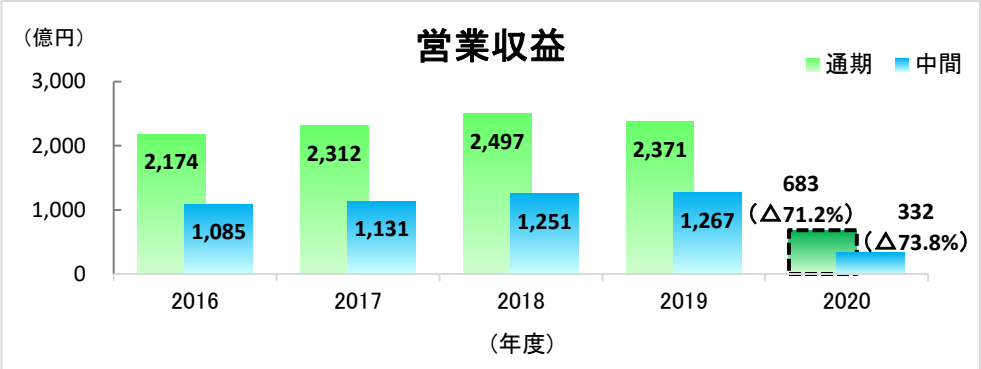
● フリー・キャッシュ・フローは、677 億円のキャッシュ・アウト（前年同期比 910 億円の減少）

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、営業収益の減収等により、前年同期比 552 億円減の 150 億円のキャッシュ・アウト（支出）。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、旅客ターミナルバリューアップ工事の完成等による支出の増加により、同 358 億円増の 526 億円のキャッシュ・アウト（支出）。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、財政融資資金の借入れ等により、同 1,807 億円増の 1,644 億円のキャッシュ・イン（収入）。

参考

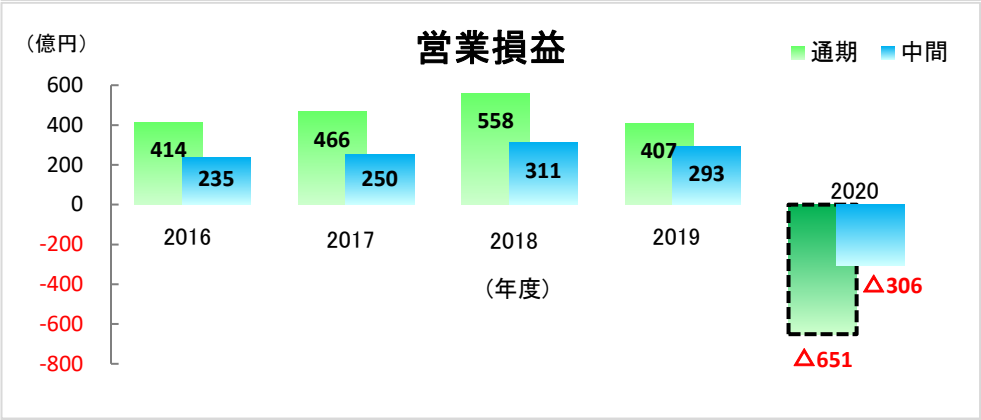
（注）決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

【連結決算推移】 括弧内は前年同期比（前期比）。2020 年度通期は予想



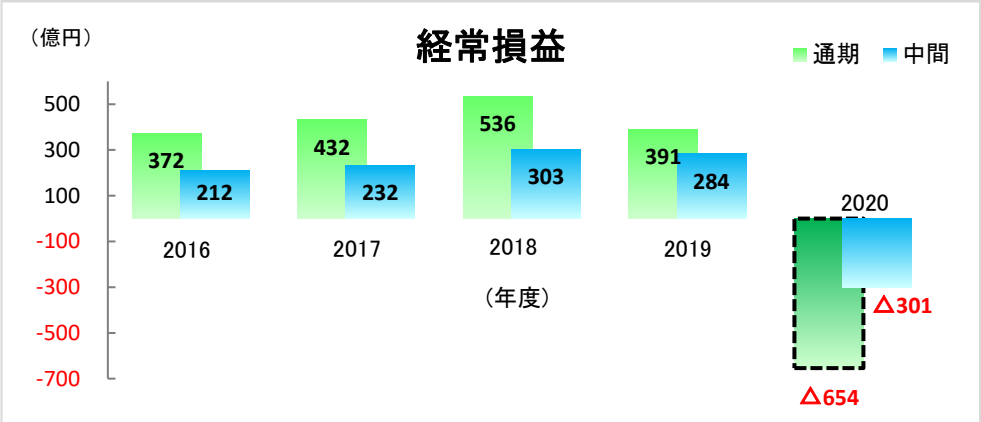
＜2020 年度中間期＞
・4 期ぶりの減収
（民営化以降の最低値）

＜2020 年度通期予想＞
・2 期連続で減収となる見通し
（民営化以降の最低値となる見通し）



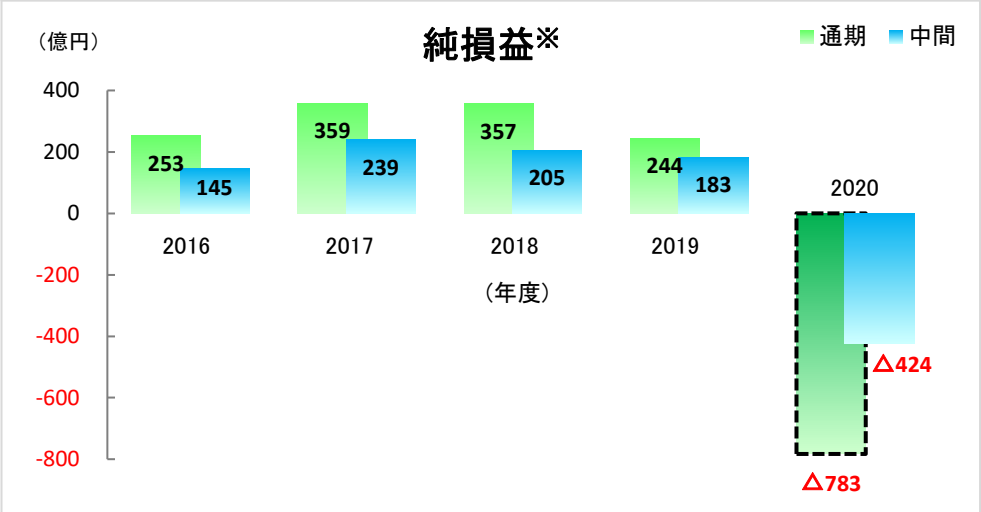
＜2020 年度中間期＞
・民営化以降初の損失

＜2020 年度通期予想＞
・民営化以降初の損失となる見通し



＜2020 年度中間期＞
・民営化以降初の損失

＜2020 年度通期予想＞
・民営化以降初の損失となる見通し

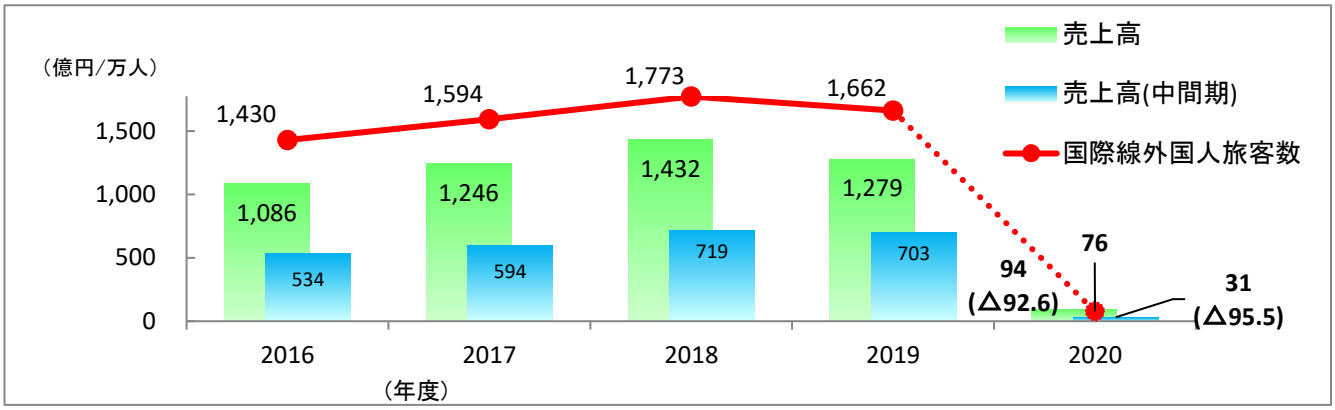


＜2020 年度中間期＞
・民営化以降初の損失

＜2020 年度通期予想＞
・民営化以降初の損失となる見通し

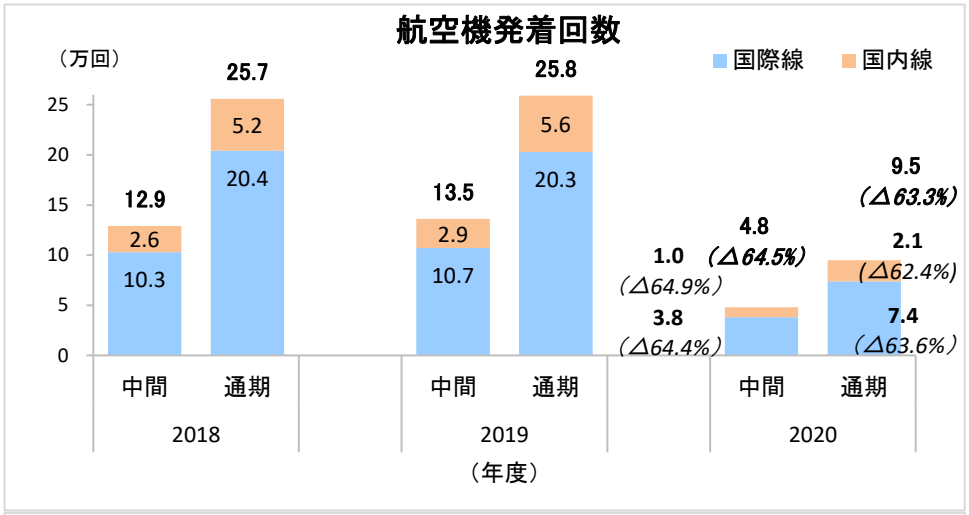
※親会社株主に帰属する中間（当期）純損益

【空港内免税店・物販店・飲食店売上高推移】 括弧内は前年同期比（前期比）。2020 年度通期は予想



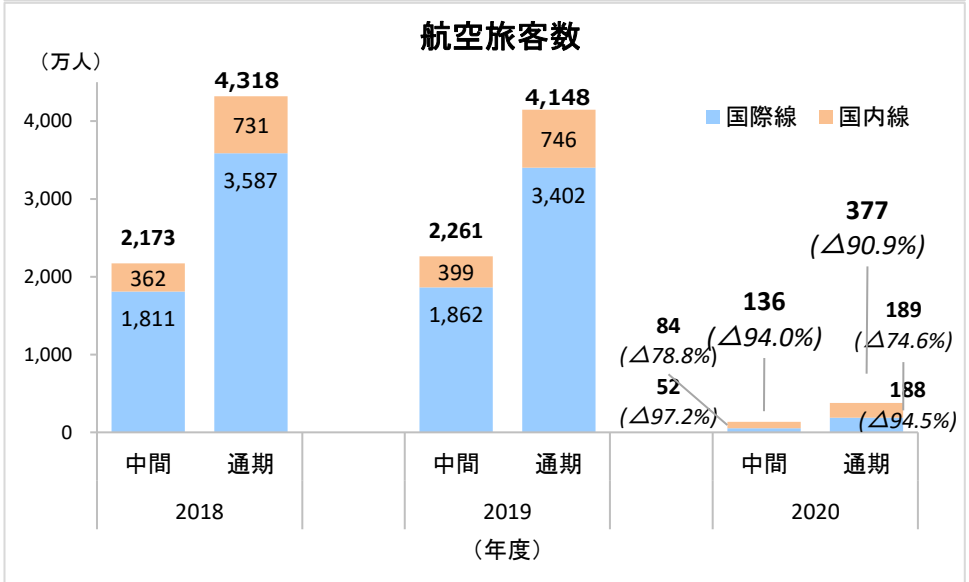
2020 年度下期においても、引き続き国際線旅客数の低迷による売上高の減少が想定されるものの、需要の緩やかな回復に合わせて売上高も徐々に伸びていくと予想。

【航空取扱量推移】 括弧内は前年同期比（前期比）。2020 年度通期は見通し



＜2020 年度中間期＞
・全体：9 期ぶりの減少
・国際線：9 期ぶりの減少
・国内線：2 期ぶりの減少

＜2020 年度通期見通し＞
・全体：9 期ぶりの減少
・国際線：2 期連続の減少
・国内線：2 期ぶりの減少



＜2020 年度中間期＞
・全体：6 期ぶりの減少★
・国際線：6 期ぶりの減少★
・国内線：2 期ぶりの減少

＜2020 年度通期見通し＞
・全体：2 期連続の減少★
・国際線：2 期連続の減少★
・国内線：2 期ぶりの減少

「★」は、開港以来の最低値および最低値となる見込みの項目

NAA 成田国際空港株式会社

〒282-8601 千葉県成田市成田国際空港内 NAA ビル

URL：https://www.narita-airport.jp/jp/